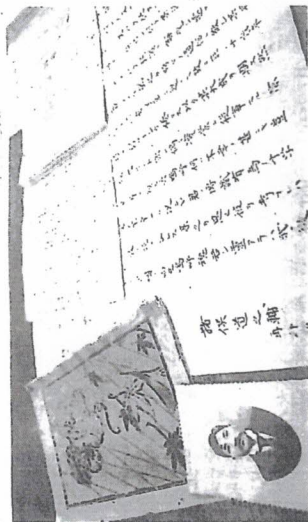


明治 在米邦人の生活改善に尽力 猪俣弥八の足跡紹介



平塚 17日まで資料展

明治時代、自由民権運動が盛んだった平塚市南金目(当時南金目村)に生まれ、20歳で渡米した若者がいた。米国内で邦人の労働環境改善や娯楽廃止運動に尽力した猪俣弥八(1868~1902年)。ほとん



生家の蔵から発見された弥八の写真や追悼集(左上)など

ど知られていない弥八の足跡を市内の歴史研究者が掘り起こし、弥八に関する初の資料展が17日まで同市金目公民館で開催されている。

資料を発掘したのは、近代史を研究する岩崎稔さん(75)。自由民権結社「湘南社」の指導者らを調査していた昨年暮れ、キリスト教信者らが眠る南金目の共同墓地で弥八の墓を見つけた。碑文の冒頭には、漢文でこう書かれていた。

「猪俣君は、有為の資を以て、海外にて盗賊の銃丸に斃れる。まことに悼惜すべきたり……」

岩崎さんは、「南金目村の自由民権運動家、猪俣道之輔の関係者ではないか」と考え、弥八について調べ始めた。弥八の兄のひ孫の

資料展では猪俣弥八の写真(左)や足跡をまとめた年表などが展示されている。いずれも平塚市南金目

猪俣立子さん(67)と夫が引き継ぐ近くの生家を訪ねると、蔵から弥八に関する多くの資料が見つかった。

米国内で撮影された弥八の写真や、非業の死を悼む追悼集などだ。米国内で制作された追悼集には、大学時代の友人でのちに外交官、外相となる松岡洋右(オレゴン州立大時代の友人)、邦人実業家、米国人宣教師ら日米で活躍した著名人が追悼文や詩を寄せていた。

その内容から、弥八は日本人娯家の排斥運動に取り組んだり、日本人労働者を派遣する会社幹部として労働条件や労働環境の改善に努めたりしたことが分かった。会社の資金を銀行から引き出したところを強盗に銃撃され、34歳の短い生涯を終えた。

岩崎さんは「渡米前に入信したキリスト教の影響が大きかった。高い人格性を持ち、在米邦人のリーダーになる大志を抱いていた」となる。

「猪俣弥八資料展」は地域の自然・歴史・文化を学び保存する活動に取り組む住民組織「金目エコミュージアム」の主催。17日まで午前9時半~午後5時。無料。問い合わせは金目公民館(0463・58・0101)。(遠藤雄二)